

岩国基地再編案に関する検討結果

(平成18年2月 岩国基地沖合移設対策室)

第1 はじめに

この検討結果は、平成17年10月29日に日米両政府間で合意された米軍再編の「中間報告」における岩国基地再編案について、国からの説明及び質問事項に対する回答を踏まえ、県において確認作業を行ったものを客観的に分析して整理したものである。

国に対する質問事項のうち、若干の事項について国から回答が得られていないものがあるが、これまで国から入手した相当量のデータにより、再編案の大筋は把握できるとの考え方によりとりまとめたものである。

県としては、「岩国基地の今以上の機能強化やNLPの実施は容認できない」という基本姿勢を踏まえ、地元関係自治体の意向を十分尊重しながら、引き続き検討を進めることとしている。

第2 これまでの経緯

| | |
|-------------|---|
| 平成17年10月29日 | 「日米安全保障協議委員会」(2プラス2)の開催及び 「日米同盟：未来のための変革と再編」(中間報告)の 合意・公表 |
| 平成17年11月4日 | 防衛施設庁長官が来庁し、「中間報告」について説明 |
| 平成17年11月4日 | 知事・岩国市長・由宇町長による三者協議 |
| 平成17年11月15日 | 防衛庁長官来庁 |
| 平成17年11月24日 | 県・岩国市・由宇町が国に対して文書照会(33項目) |
| 平成17年12月21日 | 国から文書回答(未回答7項目) |
| 平成18年1月16日 | 外務大臣来庁 |

第3 「中間報告」における岩国基地再編案の概要

日米両国政府は、地元の負担軽減と抑止力を維持するとの基本原則の下、中間報告をとりまとめたもの。

空母艦載機の厚木飛行場から岩国飛行場への移駐

- 1 移駐機数：57機
FA-18C/E / Fホーネット戦闘攻撃機：49機
EA-6Bプラウラー電子戦機 4機
E-2Cホークアイ早期警戒機 4機
- 2 移駐人員：約1,600人
空母艦載機部隊約1,500人及び支援部隊約100人

騒音等の負担に対する主な軽減措置

- 1 海上自衛隊航空機（E/U/OP-3、U-36A）17機を厚木飛行場へ移駐
海上自衛隊移駐人員：約700名
- 2 空中給油機KC-130について、海上自衛隊鹿屋基地への移駐を優先的に検討
- 3 いわゆる低騒音機（E-2C：4機）は空母艦載機離発着訓練を実施するものの、他の空母艦載機については、引き続きできる限り硫黄島で訓練を実施
- 4 岩国飛行場から他の軍用施設への訓練分散の拡大
注）この「分析結果」では2と4の事項は国から未回答のため考慮していない。

移駐の時期

岩国飛行場滑走路移設事業が終了する平成20年度以降（具体的な日程については、現在日米協議中であり未確定）